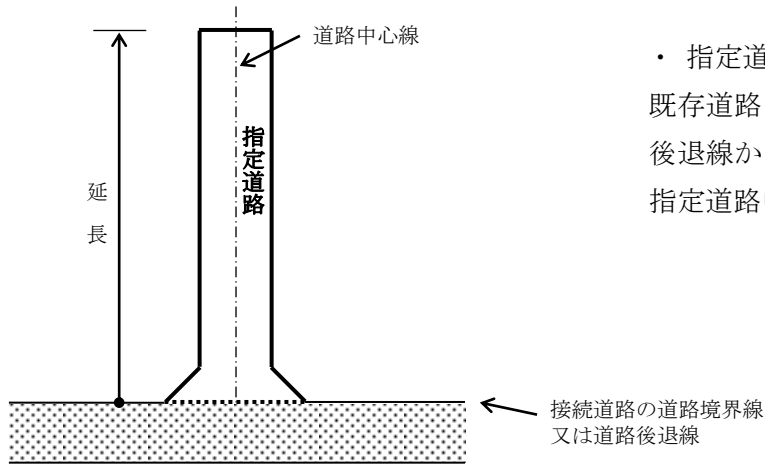


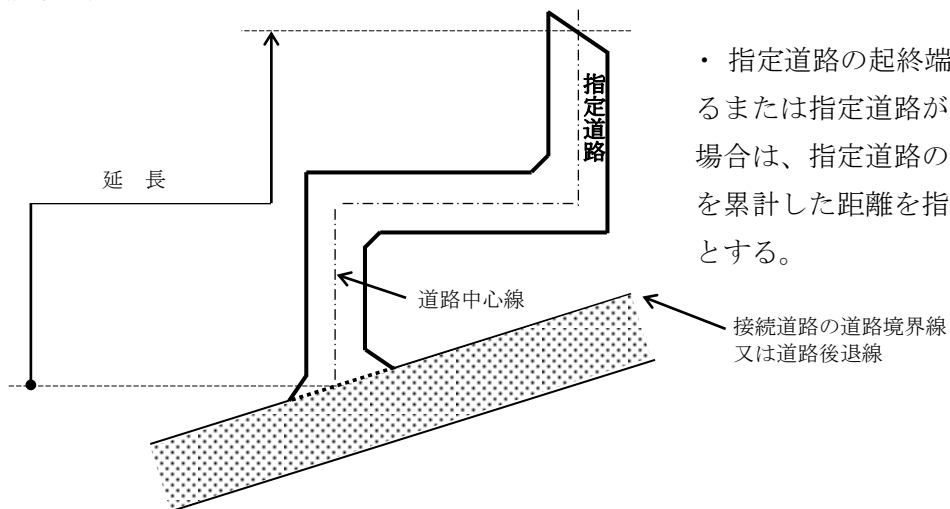
1. 指定道路の延長(第 10 条第 2 項関係)

(別図1)



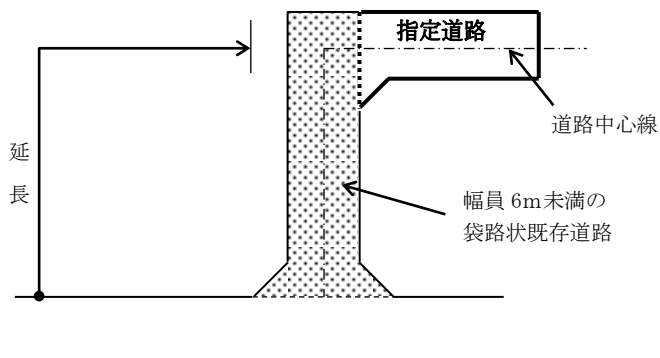
- ・ 指定道路の延長は、接続される既存道路の道路境界線または道路後退線から指定道路の終端までの指定道路中心線の距離とする。

(別図2)



- ・ 指定道路の起終端が変形しているまたは指定道路が屈曲している場合は、指定道路の中心線の距離を累計した距離を指定道路の延長とする。

(別図3)

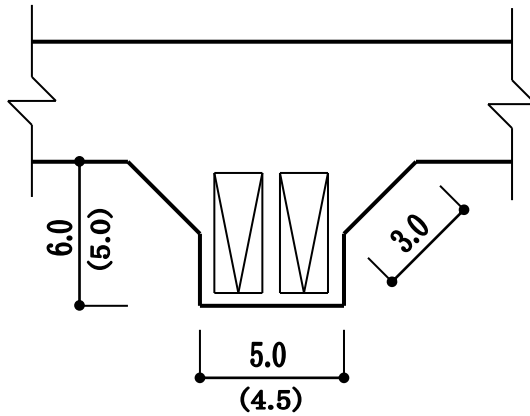


- ・ 接続される既存の道路が袋路状指定道路で幅員が6メートル未満のときは、既存道路の袋路状部分の延長に指定道路の延長を加えた距離を、第10条第1項第4号のアからウに係る指定道路の延長とする。

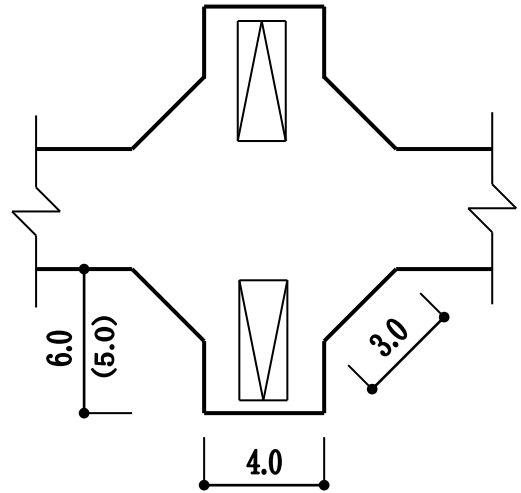
自動車の転回広場の形状(第 10 条第 3 項)

<中 間>

(別図 4)

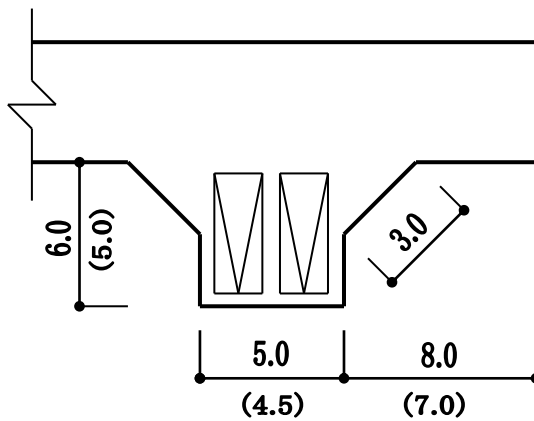


(別図 5)

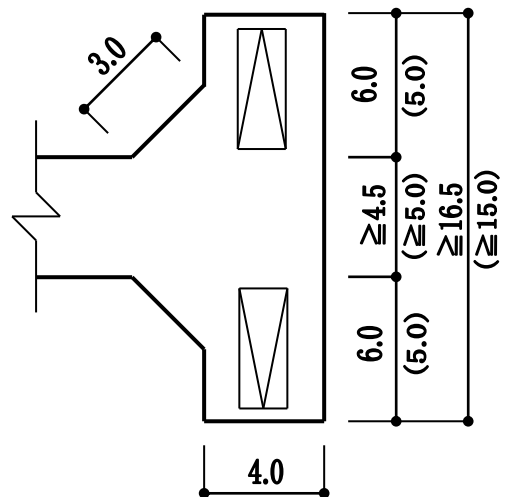


<終 端>

(別図 6)



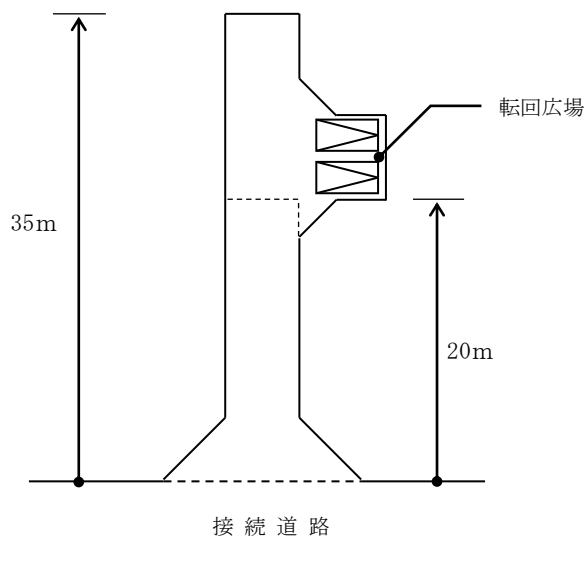
(別図 7)



(注) 指定道路の有効幅員が5.0メートル以上の場合は、()書きの数値とすることができる。記載の数値の単位はメートルとし、すみ切り長以外は有効寸法とする。

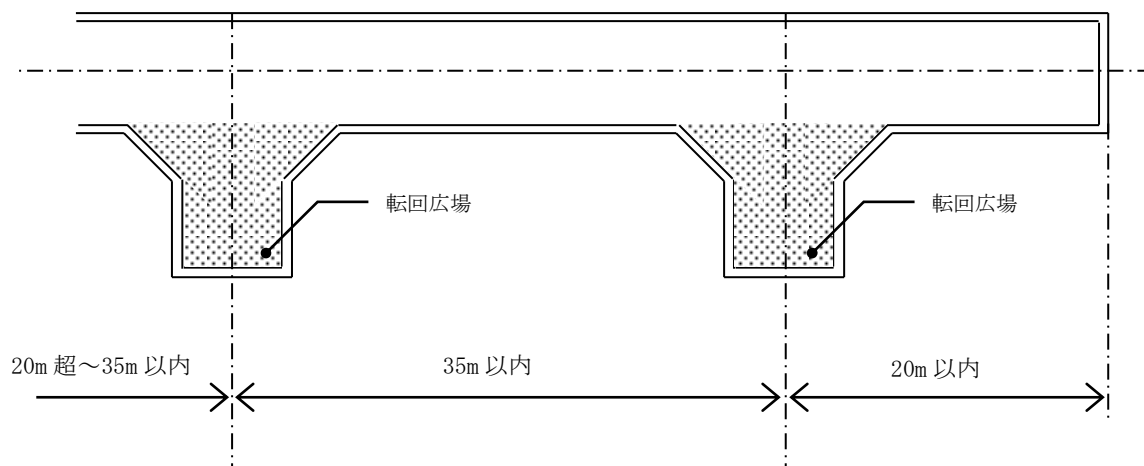
転回広場の位置(第 10 条第 4 項)

(別図 8)



(注) 袋路状道路の延長が 20 メートルを超える場合は、起点より 35 メートル以内の位置に転回広場を設けること。

(別図 9)

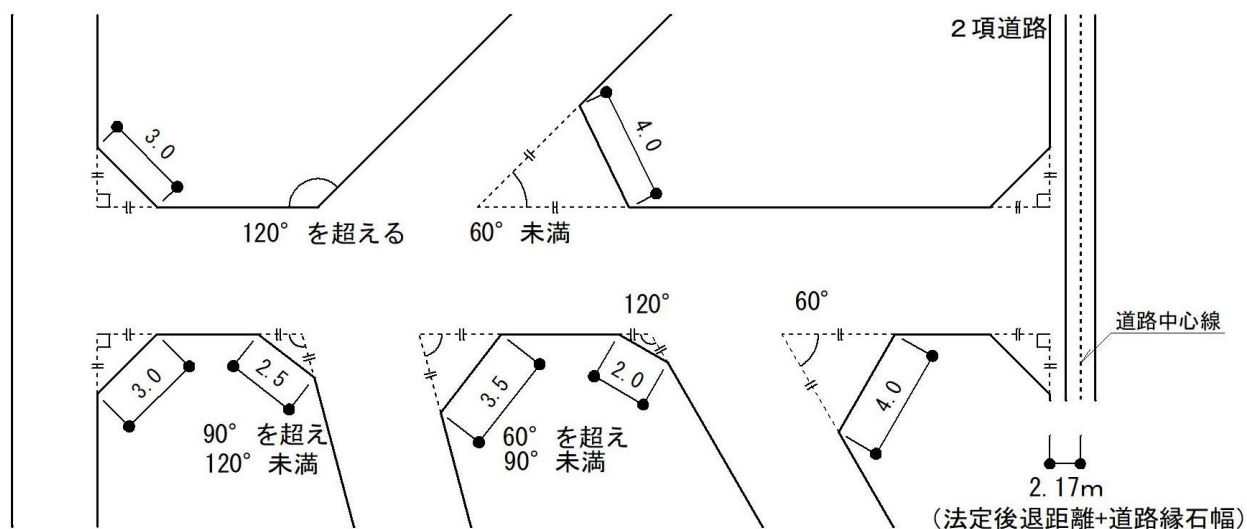


(注 1) 袋路状道路の延長が 35 メートルを超える場合は、終端及び区間 35 メートル以内ごとに下記に定める基準に適合した自動車の転回広場を設けること。

(注 2) 指定道路の終端から 20 メートル以内に設けられた転回広場は、終端に設けられたものとみなす。

すみ切りの形状(第 10 条第 5 項)

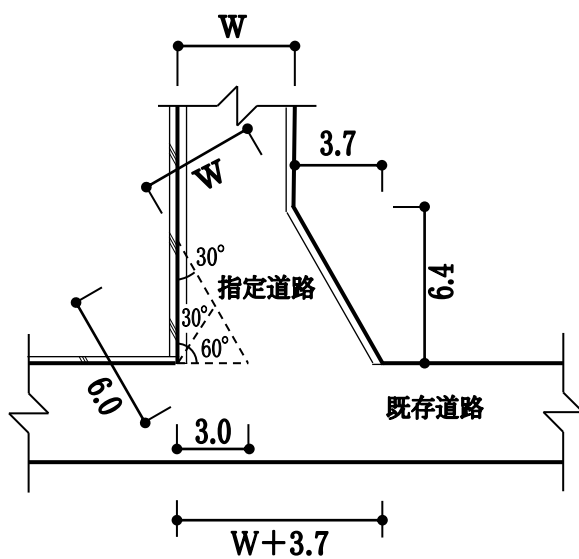
(別図 10)



(注) 同一平面で、かつ内角 120° 以下で交差、接続または屈曲する部分にはすみ切りを設けること。

記載の数値の単位はメートルとする。

(別図 11)



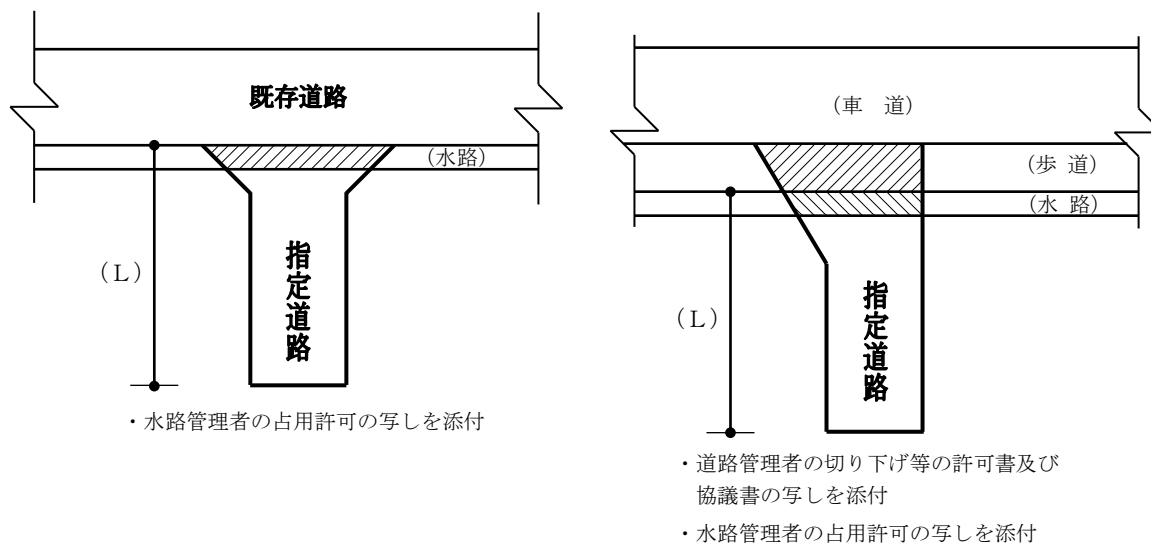
(注 1) 両側にすみ切りを設けることが困難な場合は、建築物の敷地、用途及び規模等により通行の安全上支障のないようにしなければならない。

(注 2) W は指定道路の幅員とする。

(注 3) 記載の数値の単位はメートルとする。

(注 4) 指定道路が既存道路に直交しない場合は、別途、担当課と協議を要する。

(別図 12)



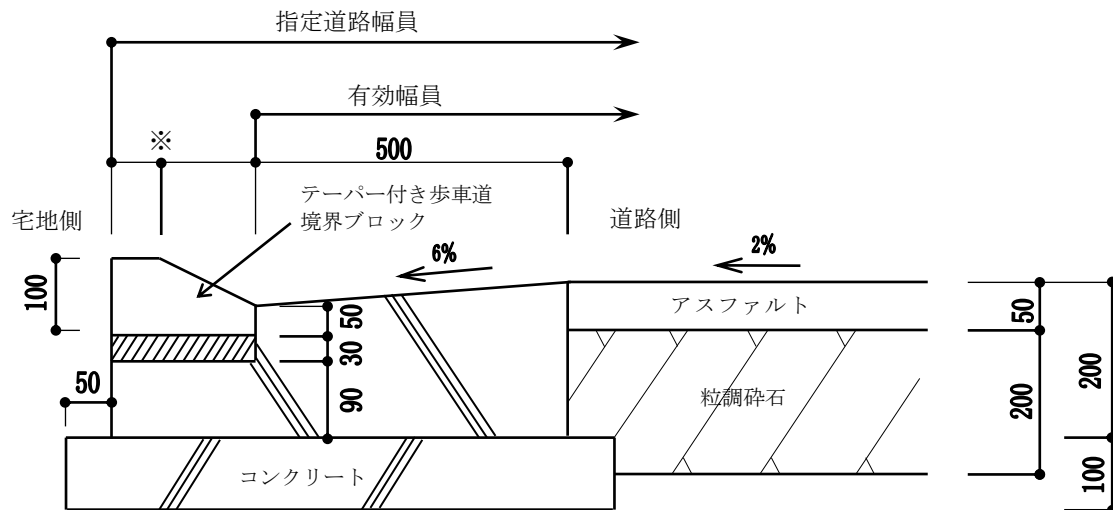
(注) 接続道路と指定道路との間にある水路または歩道を指定道路のすみ切りの一部とする場合は、これに関する管理者等との協議が完了している場合はこれを含むことができる。

※ 道路延長 (L) の取り方について、水路幅は延長に含むが、歩道幅は含まない。

道路の構造(第 10 条第 6 項)

(別図 13)

<L型側溝>



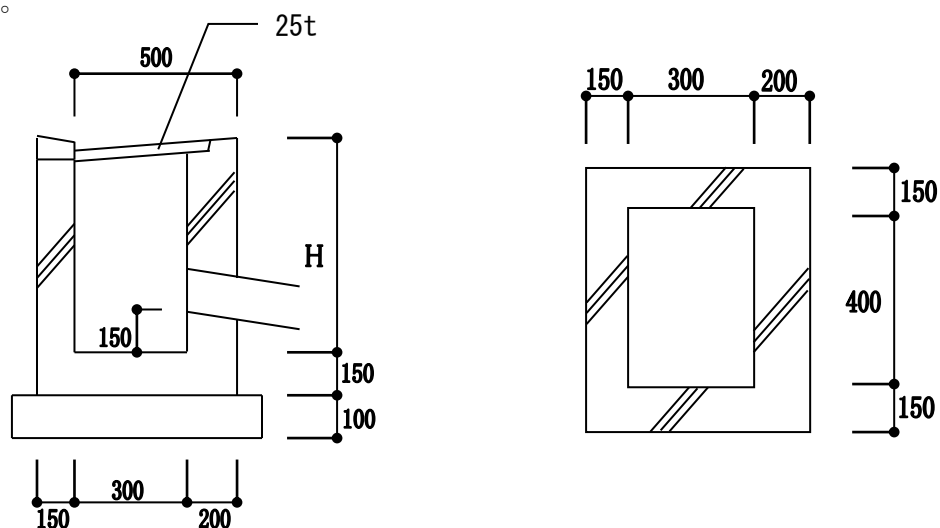
- ① 舗装は、アスファルトコンクリート舗装以上の構造とする。
- ② 縦断勾配は、9%以下とする。ただし、地形等によりやむを得ないと認められる場合は、小区間に限り 12%以下とすることができる。
- ③ 横断勾配は、2%を標準とする。
- ④ 盛土その他軟弱な地盤に設けられ通行上支障の恐れのある場合は、転圧等により、強固な地盤とした後に舗装工事をする。
- ⑤ 指定道路の取付き部分及び、指定道路内の水路等にグレーチングを設置する場合は、T-25（受枠付・振動防止型）ボルト留め以上とする。

※ 使用材料寸法による。

道路の排水施設(第 10 条第 7 項)

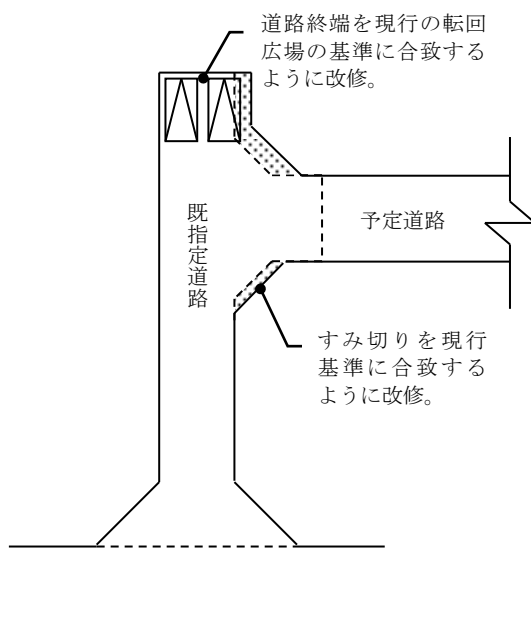
(別図 14)

- (1) 路面排水流末は、街渠枳に落としてから雨水管（下水管）へ流すこと。なお、路面排水流末に家庭雑排水を接続してはならない。ただし、接続する下水管が無い場合は関係課と協議すること。
- (2) 街渠枳は道路の両側 15 メートル以内に 1 ケ所設置し、各枳内の砂だまりは 15 センチメートルとする。グレーチングは T-25（受枠付・振動騒音防止型）とする。



既存の転回広場の改修(第 11 条第 3 項)

(別図 15)

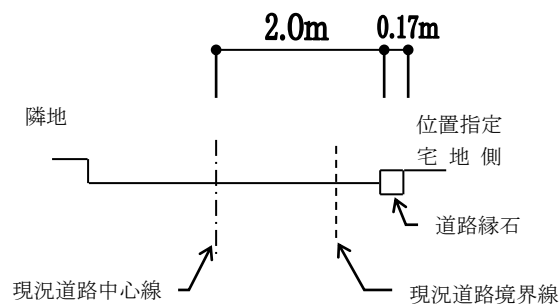
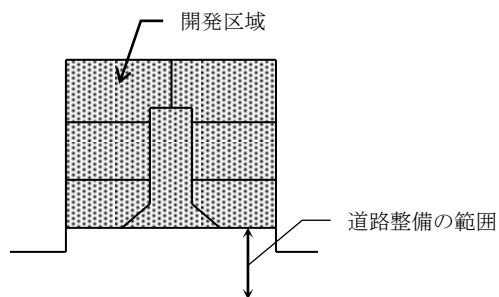


(注) 既存指定道路の転回広場から新たに指定道路を延長する場合は、道路の終端を転回広場に、既存の転回広場のすみ切りを新たな道路のすみ切りになるよう必要な改修等を行うこと。

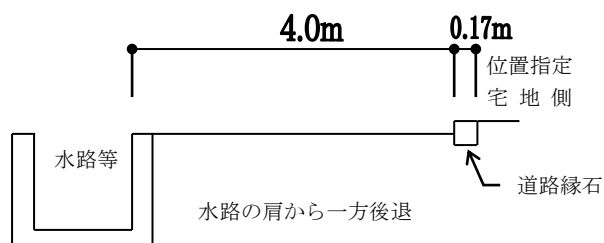
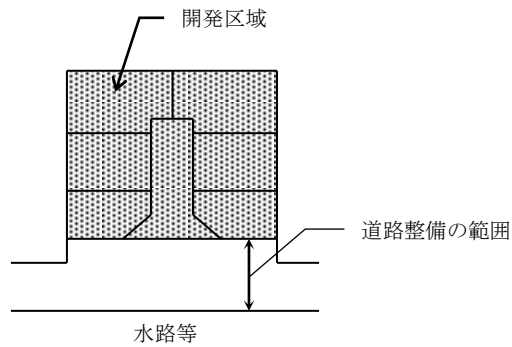
接続道路の後退整備(第 11 条第 4 項)

(別図 16)

(イ) 接続道路が幅員 4.0m 未満の場合



(ロ) 道路の反対側に大きな水路等が有る場合



＊) 水路にガードレール等の工作物が連続して設置されている場合は、当該工作物面より 4.0m の一方後退による有効幅員確保に努めるものとする。

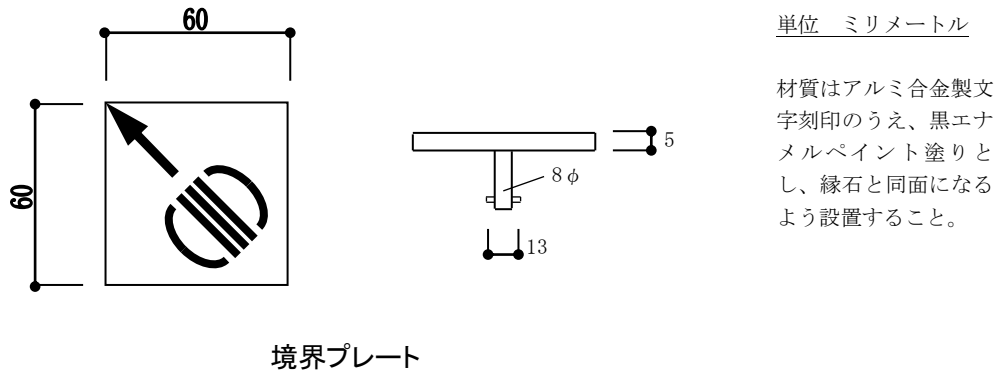
(注 1) 開発区域及び関連する区域が接する既存道路が法第 42 条第 2 項の場合は、法定の後退距離に道路縁石幅を加えた後退距離を確保するものとする。

(注 2) 後退部分には、幅員確保の妨げとなる電柱等の工作物を設けてはならない。

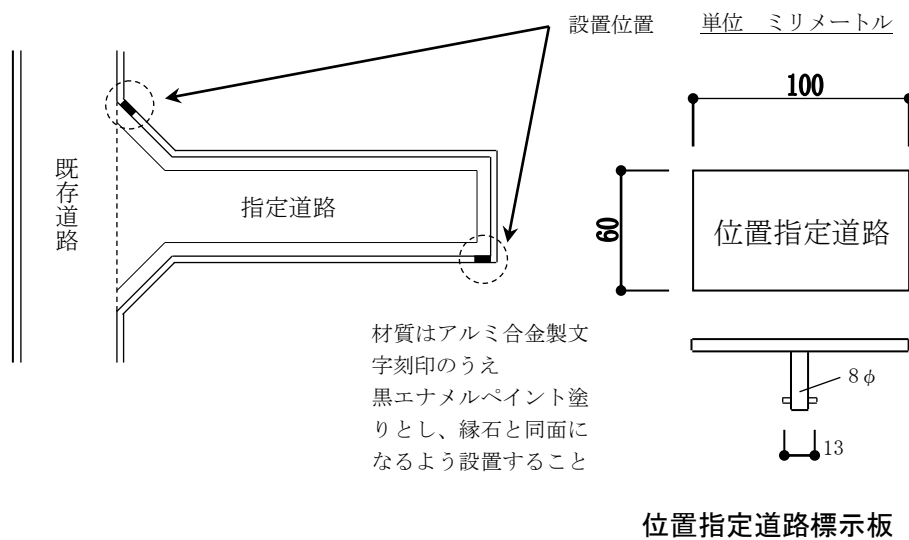
(注 3) 接続道路が市道等公的管理の場合は、後退部分を市に寄附採納するものとする。

道路の標示板(第 23 条)

(別図 17)



(別図 18)



(注) 指定道路には、市の指定する境界プレート及び位置指定道路標示板を道路敷地からはみ出さないように設置すること。